

調査研究の目的

各学校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう、教師による指導方法や指導体制の工夫、改善等が進められている。日々の忙しさから、個に応じた教材・教具の準備が追いつかない現状があるが、近年、学習者用デジタル教科書や CBT 等、様々なデジタルコンテンツを活用し、こうした課題を解決しようとする 取り組みがみられる。



その一つとして、「※MEXCBT (メクビット、以下 MEXCBT)」(文部科学省 R4.12 月から) の運用が始められている。ここでは、MEXCBT が学校現場での活用につながるように、

- 1 いつ、どのように使えそうか
- 2 学習した内容の定着度を確かめる場面での活用
- 3 授業中の学びを生かし作成した問題を用いて、学びの過程を振り返る活用

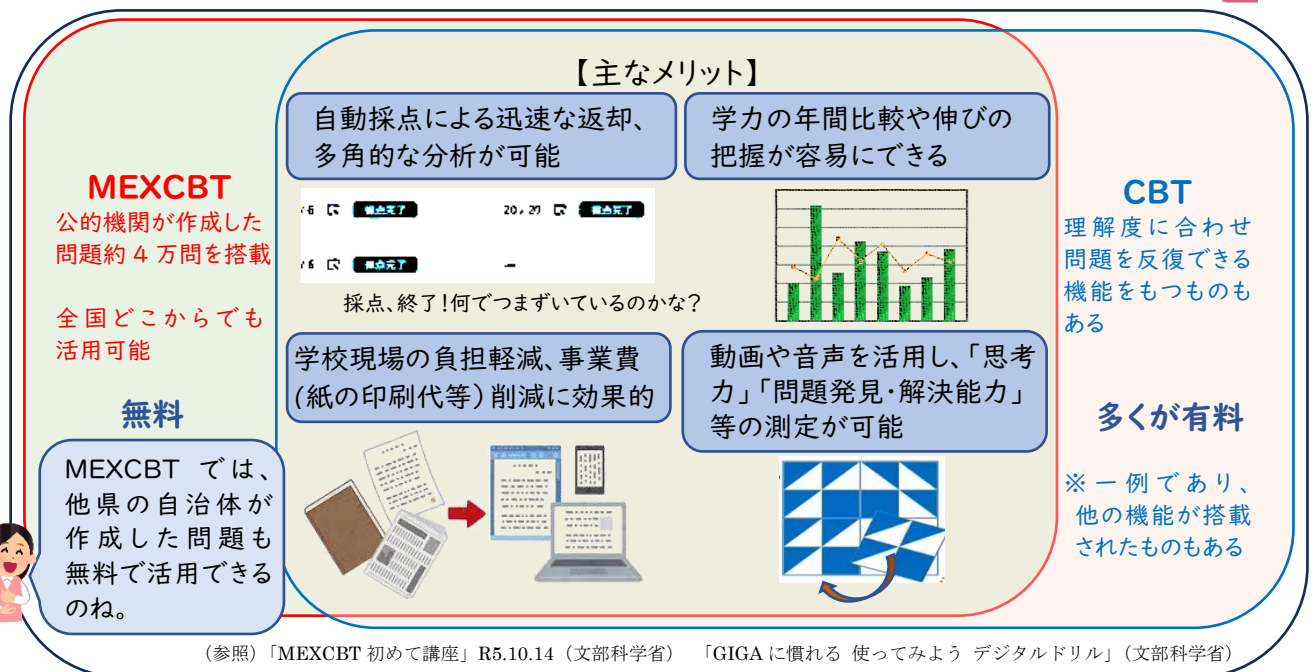
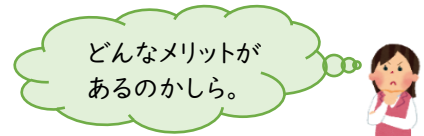
の3点から理解を深め、考察した。

(※「MEXCBT」: 文部科学省の略である「MEXT」と、Computer Based Testing (コンピュータ使用型調査) の略の「CBT」を掛け合わせた造語)

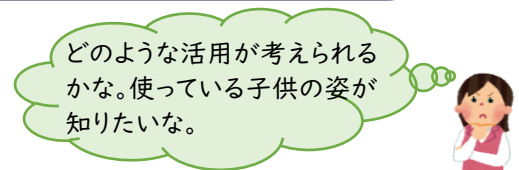
調査研究の内容

1 いつ、どのように使えそうか

文部科学省の資料や全国の実践事例をもとに、MEXCBT や CBT のメリットを整理したのが下の図である。

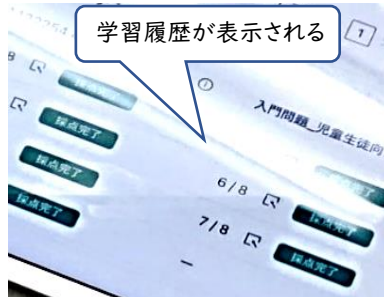


図に示したメリットを生かし、指導の効果が高まるように、学校や子供の実態に合わせて、様々なデジタルコンテンツを使う場面や学習スタイル等について工夫していくことが大切である。



2 学習した内容の定着度を確かめる場面での活用

【事例1】 3、4年生（複式学級） 総合的な学習の時間＋理科 「生き物図鑑を作ろう」
生き物図鑑を作るために単元の中で学んできたことを確認する場面



分かったこと

先生が確認問題を配信
↓
児童が自分のペースで取り組む
↓
すぐに結果を確認できる

この使い方は、家庭学習にもよさそう!



各学校での活用を進めるには、まず、授業において知識・技能の定着に向けたドリルとしての活用から始め、さらに家庭学習等の授業外での活用につなげることも考えられる。

自動採点の機能によって、教師は、その場で子供の学習の定着度を確認できるため、全体指導や個別指導を充実させやすくなる。

3 授業中の学びを生かし作成した問題を用いて、学びの過程を振り返る活用

【事例2】 5年生 英語 「UNIT6を復習しよう」
今年度の全国学力・学習状況調査の問題をヒントに、担任の先生が作成した「話すこと」の問題に取り組む場面

分かったこと

子供が授業の中で使用した資料や言葉、描いたイラスト等を用いて、実際の学びをベースとした問題の作成ができる。
子供たちは、自らの学びの過程を振り返ることができる。



☆「英語」（5年生）の授業で、子供からこんな声が聞かれました



「市販のドリルは決められた問題をやるしかないけれど、MEXCBTでは先生に頼むと問題を送ってくれるから、**やりたい問題にたくさん取り組める。**」「英語は、聞いたり自分で話したりできる問題の方が、**ワクワクするし、楽しい。**」

「自分で選んで、決めた」という主体性の発揮が、子供の取組の意欲につながりそう。パフォーマンステストもできそうね。



MEXCBTの活用によって、「もっとやりたい」という気持ちで取り組んでいる子供たちの姿がある。子供が振り返りを踏まえて、次に取り組む内容や量、時間などの学習計画を立てることで、主体的に学習に取り組む姿につながる。子供が学習計画に沿って問題を選択できるように、教師は、標準的な問題と発展的な問題を示したり、子供が選択した理由を記したりできるような工夫をすることが大切である。

まとめ

子供が自分の取り組む内容や量、時間などの学習計画を立て、学習の調整ができるようになることで、学びに向かう力、人間性等の資質・能力の育成につながる。MEXCBT（CBT）だけ活用すればよいというのではなく、既存の教材・教具や今までの指導方法等と組み合わせることによって、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることにつながるだろう。

子供が主体的に追究していく学習や、学ぶことの楽しさやよさを感じ、実感を伴った学習において、MEXCBTには大きな可能性を感じている。

MEXCBT、
使ってみようかな。

